

令和元年7月

# 魚津市定例記者会見



日時：令和元年7月1日（月） 午後1時30分～午後1時55分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、朝日新聞社

NHK、KNB、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、  
企画政策課長

## 1. 市長からの発表事項

### (1) 第1回魚津市総合計画審議会を開催します

- ・本市が令和3年度からの10年間をかけ、市民の皆様とともに取り組むまちづくりの最も基本となる新たな総合計画の策定に向けての「第1回魚津市総合計画審議会」を7月18日（木）に行う。
- ・審議会委員については、24の団体や個人から構成予定であり、特に女性委員割合は40%以上にしていきたいと考えている。  
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

### (2) 「第50回じゃんとい魚津まつり」の開催について

- ・8月2日～4日、7日に開催（7日は経田七夕祭り）
- ・50回の節目の年であり、海上花火大会については、魚津まつり実行委員会では例年以上に力を入れて計画している。最大の見どころは、20時頃に打ち上げの特大スターマインで、企業からのほかに特別市民協賛により打ち上げる。  
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

### (3) 「ボッチャ交流体験会」を開催します

- ・市では2020年東京オリパラに向け、ボッチャ競技の事前合宿誘致活動を行っている。ボッチャ競技を市民の皆様にご存知いただき、パラリンピックへの理解を更に深めていただきたいと思います。
- ・7月13日（土）午後1時から富山トヨタ(株)魚津店で開催。トヨタ自動車は、東京オリパラの公式スポンサーになっていることから、今回、魚津市と共催でボッチャ交流体験会を開催することとなった。  
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

#### (4)「ふるさとワーキングホリデー」事業の実施について

- ・都市部を中心とした県外の若者等が、働いて収入を得ながら一定期間魚津市に滞在し、市民との交流などによって魚津市を体験することで、市との継続的なつながりを持つことを通して、移住や関係人口の増加につなげる事業である。
- ・市商工会議所会報にて受入事業所の公募を行ったところ、7月1日現在で6社から応募があった。(今後も応募企業が増える可能性あり)
- ・受入予定人数は5名程度。今回のPRは前期(7月～9月)までの受入に関するものである。  
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

## 2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

### 〈民生部長〉

- 魚津地場産野菜のパフェ (UOVEGI (うおべじ) パフェ) を作ってみよう♪の開催 (7月18日午後3時～ 健康センター)
- ・保護者世代の野菜の摂取量が特に不足しており、その子どもたちの野菜摂取不足も想定されることから、親子で野菜の摂取と魚津地場産野菜の活用として、地場産野菜を盛り込んだ野菜パフェを提案する。  
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

### 〈産業建設部長〉

- 魚津市農商工連携インターンシップ2019を実施します。  
(8月1日～7日 6泊7日)
- ・「地域体験型インターンシップ」として、大学生計20名(予定)が魚津市に滞在する。期間中は、市内企業・事業所への訪問をはじめ、たてもん祭りへの参加、農業・漁業体験、市内一般家庭での体験民泊など、地方で「生きる」「働く」「暮らす」ことを実際に体験する。
- ・今回の新たな取組として、首都圏在住の学生と北陸職業能力開発大学校の学生と一緒にインターンシップを実施することを検討している。  
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

## 3. 質疑応答の内容

### 「第1回魚津市総合計画審議会」について

#### 《記者からの質問》

市の財源不足を補うためにいろいろと知恵をしばっている最中であると思うが、一方で総合計画というものは夢があるもので、まちづくりの指針になるものであると思う。どのような思いで策定に臨まれたいか。財源不足の部分も多少絡めながら、市長の思いを聞かせてもらいたい。

### 《回答》（市長）

新しい総合計画の基本構想・コンセプトは、これから市民皆様の意見をお聞きして作成していくので確たることは言えないが、人口が減っていくなかで、どうやって住民ひとりひとりの生活の質を、安心感のことも含めて形成していくかが一番重要であると思っている。そういう意味で、施設の量などではなくソフト面を含めて、50年、100年先とは言わないが、10年先ぐらいは、ちゃんと生活していけることを描けるような総合計画でありたいと思っている。

当然、その中には、市としての主要プロジェクトがある。庁舎のことも含めて、しっかり描いていくことが必要であると思っており、そのような面は、現在策定している財政健全化のプランなどと整合をとって、新総合計画のなかにも一定程度の方向性を盛り込んでいければと思っている。

### 《記者からの質問》

女性委員の割合については、40%を目標に調整中とのことだが、女性委員の割合を増やすということにはどんな意図があるのか。

### 《回答》（市長）

市の審議会や委員会での女性委員の割合の目標が40%であり、それをクリアしたいと思っている。これまでいろんな会合や意見を言う場に、女性と若い人の顔が見えないことが多かったので、そういった方々に参加していただきご意見をいただきたいということである。